

神奈川大学の発展をめざして



施設も充実していく神奈川大学
木造校舎から鉄筋コンクリート校舎へ（1962年）

神奈川大学は、当初「横浜大学」の名称で新制大学の設置をめざしました。しかし、横浜市内の他の専門学校も「横浜」の地名を用いた大学を設けたく、校名の決着は容易にはつきませんでした。結局、学校の代表者による会談で決めることとなり、席上米田は、学生からも提案のあった「神奈川大学」とすることを宣言しました。こうして誕生したのが、神奈川大学のほか横浜国立大学、横浜市立大学でした。

1952（昭和 27）年に総工費 5 億円にのぼる「神奈川大学整備拡充計画」が発表されると、施設面の整備・拡充が本格化します。計画の見直しを経て 1955（昭和 30）年に竣工した 3 号館は、本学では最初の鉄筋コンクリート建築で「近代設備を誇る新校舎」と新聞紹介されるなどモダンな建物でした。



（上）神奈川大学校歌発表会 米田と作曲者高田三郎および作詞者神保光太郎 （下）現存する校舎では最古となる 1956 年竣工の 5 号館（工学研究室）